

業務実績報告書

提出日 2020年1月24日

1. 職名・氏名 教授 中西 泰之

2. 学位 学位 博士、専門分野 経済学、授与機関 京都大学、授与年月 1997.7

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等	基礎ゼミ (2単位 毎年開講) 2年生 (毎年度)
② 内容・ねらい	現代日本の経済社会を対象として、年度ごとに異なったテーマを選択している。近年扱ってきたテーマは、20世紀末以降の現代日本経済で、個別の問題では、非正規雇用の増大・高失業率・日本型雇用と欧米型雇用・少子高齢化・デフレとアベノミクスなどです。2019年は、特に消費増税にまつわる諸問題を集中的に取り上げました。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の興味を引くように、現代日本の経済社会を対象とし、その範囲内で毎年異なったテーマを選択している。 2. 1冊の本を扱うのではなく、複数の書物や雑誌などから適切な文献を取捨選択して、多様な視点を意識させるようにしている。 3. 対象とする文献について、学生には毎回コメント文の提出を求めている。また、テーマにもよるが、関係するテレビやラジオ報道番組・ドキュメンタリーその他の録画・録音・ビデオ・音声教材で適切なものがある場合、適宜利用している。
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等	外書講読 I (2単位 毎年開講) 2年生 (毎年度)
② 内容・ねらい	主に現代の人口に関連する文献を扱い、人口学の概念・用語・知識などは勿論、関連する現代の日本あるいは世界の政治・経済情勢を理解できるよう解説している。2018年までは専門書を取り上げてきたが、2019年には米国の人口社会学者による人口学のテキストを採用した。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回、全員に訳出させる (全員、毎回の予習が必須)。 2. 毎回、小テストを行って成績評価を行なっている。 3. 毎回の冒頭で、前回の訳出部分を教員が改めて検討・翻訳したものを全員に手渡して、前回の復習をする。講義がすべて終了した後は、原文と訳文の両者が学生の手元に残ることになる。 4. 毎回学生に渡す訳文は、講義中に訳出する範囲よりも多い範囲の訳文としている。これは、特に英語なり人口学なりに興味を持っている学生には、講義内で扱う以上の範囲を自分で読み、チェックできるようにするためである。 5. 毎回配布した訳文について、学生の意見を翌週に提出させ、教員側で点検している。この作業を経て、最終的な訳文を数回分まとめたものを学生に手渡している。 6. 原文の読み上げは、ネイティブの音声を聞かせている。
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等	経済人口学 (2単位) 2年生 (毎年度)
② 内容・ねらい	人口の歴史・理論・現状と将来の課題について学ぶ。現代の人口問題が近代化の必然的帰結であることを理解し、より広い視野から現代社会の来歴と未来、その課題を捉えられるようにする。

<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 適切な教科書がないため、毎回その回の講義ノートとデータ資料を作成し配布している。 2. 形式人口学に属する議論は数学的統計学的知識を多く必要とするため、実体人口学的な内容を主内容とし、社会人口学や歴史人口学なども含めた幅広い議論を紹介している。ただし時間的制約により、死亡については扱っていない。 3. 具体的な講義内容としては、現代の人口問題を把握するために必須の人口転換の理論・その帰結、および、現代の少子化・将来見通し・少子化対策に力点を置いている。 4. 年度によって異なるが、小テストあるいは課題提出を適宜あるいは毎回実施した。 5. 年度によっては、外部講師（卒業生）に話を聞く機会を設けている。
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 経済学史（2単位） 2年生（毎年度）</p>
<p>② 内容・ねらい 経済学の成立期から戦後期にいたる理論経済学の歴史的な展開を講義する。経済思想史・社会思想史にも触れるが、主に理論史の領域に焦点を絞って、より広い視野から経済学的思考をとらえ、現代の経済学の特質・意義・限界をより深く理解できるように努めている。なかなか時間が取れないが、最終回の講義で戦後の経済思想を現在のブレイグジットとトランプノミクスまで含めて講義した（年度によっては時間が足りずに断念した）。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 適切な教科書がないため、毎回その回の講義ノートと各種資料を配布している。 2. 他の講義で学んでいるはずのことや、本講義の復習にかかわることなどでは、学生にそのつど質問して理解度を確認しながら進めている（受講者数・年度・進行状況による）。 3. 経済学史上の古典の一部を配布・輪読して、実際の古典に触れる機会を提供している。 4. 毎回の小テストを行ってきた。 5. 単なる過去の歴史としてではなく、現代の経済問題あるいは経済理論（たとえば MMT）と絡めて議論をして、現代の課題としての意味も理解可能のように詩論を進めている。
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 特別企画講座 A（1単位 毎年開講） 2年生（毎年度）新宮・渡邊両先生と共同の世話人</p>
<p>② 内容・ねらい 連合福井による寄付講座</p>
<p>③ 講義・実験・実習運営上の工夫 基本的には従来年度と同様。</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 演習 I（4単位 毎年開講） 3年生（毎年度）</p>
<p>② 内容・ねらい</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前期は、人口学の基本および、戦後日本の人口問題について検討した。 2. 後期は、現代貨幣理論（MMT）を中心に検討してきた。
<p>③ 講義・実験・実習運営上の工夫</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 半期ごとにレポートを提出させ、卒論のテーマ探しの一助とする。 2. 通常のゼミでは、毎回、対象とする文献へのコメントを提出させている。 3. 書物を選んで輪読するのではなく、各テーマに沿った複数の文献を適宜組み合わせ、学生に提供し、複数の視点から理解できるようにしている（年度による）。 4. 現在の日本経済については、その時々々のトピックに対して、適切な動画などがあれば（年度によるが）、適宜視聴させている。
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 演習 II（4単位 毎年開講） 4年生（毎年度）</p>

学会での役職など
学会・分科会の開催運営
(3)研究会活動等
① その他の研究活動参加
② その活動による成果
(4)外部資金・競争的資金獲得実績

5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
① 国・地方公共団体等の委員会・審議会
② 国・地方公共団体等の調査受託等
③ (公益性の強い) NPO・NGO 法人への参加
④ (兼業規程で業務と見なされる範囲内での) 企業等での活動
⑤ 大学と他の公共性の強い団体との共催事業等
⑥ その他
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
①公開講座・オープンカレッジの開講
②社会人・高校生向けの講座 開放講義、福井県立羽水高等学校、2017年 7月 開放講義、福井県立藤島高等学校、2018年 10月。
③その他
(3)その他(個人の資格で参加している社会活動等)

6. 大学の管理・運営

(1)役職(副学長、部局長、学科長)
2016年度 経済学科長
(2)委員会・チーム活動
2014-15年度 インターンシップ担当教員 2016年度 教育企画推進委員 2017年度 予算委員会委員 2018年度 入学試験本部委員会委員
(3)学内行事への参加
(4)その他、自発的活動など